

## 今週の株式相場見通し

- \* 日経平均 22,200~22,800円 TOPIX 1,700~1,750
- \* 期待材料 IoT社会の実現 IoT、AI活用による生産性改善
- \* 不安材料 貿易摩擦激化 地政学的リスク 中国経済の成長鈍化

米中貿易摩擦もしくはハイテク分野での米中の覇権争いに対する警戒感がめぐえず、株式市場は不安定な動きになっている。しかし、中国としてはいずれ米国に大きく譲歩せざるを得ない展開になるものと思われる。米国がハイテク分野での覇権争いへの対応策として、半導体や半導体製造装置など先端分野の輸出禁止策(中国版ココム)を導入するようなことがあれば、中国はハイテク製品を自国で生産出来なくなり、AI、IoTなど先端分野の産業育成が非常に困難になる。中国にとっては、このような事態は何があっても避けたいものと思われる。もちろん、日米両国のハイテク産業にとっても痛手になるが、中国のハイテク産業に対して効果的に打撃を与えることが可能と思われる。中国は交渉において圧倒的に不利な立場にある。ハイテク分野での米中の覇権争いは、深刻化する前に中国側が早々に落としどころを見つける展開になろう。

米国では4-6月期の決算発表が本格化しており、企業業績に対する株式市場の関心が高まりつつある。18年通期のS&P500の予想一株利益(EPS)は159.8、19年では176.3が見込まれている。業績予想が大きく下方修正されることがなければ、19年の業績見通しを織り込みに行く秋から来年初にかけて、S&P500は今年1月に付けた最高値2,872を上回る2,900程度に向けて上昇していく展開が見込まれる。また、米中貿易摩擦の影響や上昇が鈍い物価と賃金などを鑑みて、FRBには利上げに及び腰な姿勢も見られる。ゴルディロックス(適温)相場継続への期待感が高まり、PERの上昇も伴った力強い株高局面となることも想定される。日本株式市場でも、好業績期待銘柄を中心に戻りを試すものと思われ、訪日外国人向けWiFiレンタルのビジョン、ネット広告配信事業が好調なソネット・メディア、ジーニー、オンライン航空券予約アプリの取扱高が急増しているアドベンチャー、スマートフォンなど向けに耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス「ナノセラム」の採用拡大が期待されるオハラ、5G時代に向けてデータセンタや自動運転車など向けに幅広い用途で半導体の需要拡大が期待されるアドバンテスト、東京エレクトロンなどに注目している。

(7月12日現在、松本 直志)

## 今週の予定

	国内	海外
7/17 (火)	日本・EU EPA 署名式 18年上半期・6月のマンション市場動向	[米]6月鉱工業生産(22:15) [米]パウエルFRB議長が上院銀行委員会で証言
18(水)	第159回芥川賞・直木賞 選考会 第4回無電柱化推進展(~20日)	[米]6月住宅着工件数(21:30) [英]食品大手プレミアフーズ 株主総会
19(木)	6月貿易収支(8:50) SoftBank World 2018(~20日)	[南ア]中央銀行政策金利 [英]ゴルフ 全英オープン選手権(~22日)
20(金)	6月全国CPI(8:30)	[ブラジル]「日本祭り2018」(~22日)
21(土)	サッカーなでしこリーグカップ決勝 日本難病看護学会学術集会(~22日)	[アルゼンチン]G20 財務相・中央銀行総裁会合(~22日)
22(日)	通常国会会期末	[独]自動車 F1 ドイツ GP 決勝

出所はロイター、ブルームバーグ、新聞各紙等より、時刻は日本時間(予定)

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、宜しくお願い致します。

## 今週の参考銘柄

### 日東電工 (6988) 東証1部



	17年3月期 (百万円) 前年比	18年3月期 (百万円) 前年比	19年3月期(予) (百万円) 前年比	株価(7/12)	7,941 円
売上収益	767,710 -3.2%	856,262 11.5%	860,000 0.4%	業種	化学
営業利益	92,589 -9.6%	125,722 35.8%	135,000 7.4%	売買単位	100 株
税引前利益	91,791 -10.0%	126,168 37.5%	135,000 7.0%	PER(予想)	12.5 倍
最終利益	63,453 -22.3%	87,377 37.7%	10,000 14.4%	PBR(実績)	1.8 倍
EPS(円)	390.9	539.0	636.4	ROE(実績)	13.0 %
配当金(円)	150	160	180	配当利回り(予想)	2.3 %
				担当	多功 毅

出所：業績に関する数値は決算短信、補足資料より

事業セグメント別構成比は、売上高では、オプトロニクス：57.3%、インダストリアルテープ：39.6%、ライフサイエンス：4.2%、その他及び全社・消去：-1.1%であり、営業利益では、オプトロニクス：73.6%、インダストリアルテープ：27.3%、ライフサイエンス：4.8%、その他及び全社・消去：-5.7%となっている。

中長期的な観点において、オプトロニクス、ライフサイエンス事業が成長をけん引するものと想定している。主力のオプトロニクスは、55インチ以上の超大型液晶テレビ、中でも4Kや8Kなどの高付加価値製品向けをターゲットに自社で事業展開を進める一方、競争激化が見込まれるボリュームゾーン向けについては、中国企業へのライセンス供与等で収益化を図っていく。技術的優位性を活かせるスマートフォン等の中小型液晶ディスプレイ向けについては最先端品の供給を図るとともに、今後、本格的に普及が見込まれる有機EL向けについてもフォルダブルタイプ向け偏光板、透明導電性フィルムを筆頭に競争力の高い製品ポートフォリオで対応を図っている。また、現在の業績貢献は限定的であるが、将来的に大きな成長が期待されるのがライフサイエンス事業に属する核酸医薬品である。顧客の製薬会社各社が開発中の核酸医薬品が、研究開発段階から製品段階への移行が近付いているとされ、シェア60%程度を有する受託製造事業は、今後、本格的な市場拡大が期待される。加えて、自社創薬品にも取り組んでおり、肝硬変治療薬や肺線維症薬、がん治療薬等について治験、開発段階にある。

## 説明会より

銘柄 (コード) 市場 株価(7/12) 売買単位	コメント
<b>ウエルシア HD</b> (3141) 東証1部 5,670円 100株	1Q決算は13.8%増収、2.6%営業減益だが、社内計画に対しては売上高で0.8%、営業利益で32.1%の超過達成。調剤事業においては、薬価改定による影響が当初想定ほど影響が生じなかったことに加えて、調剤併設店の拡充や既存店における処方箋取扱い枚数の拡大に伴う数量効果により、想定に対し上ブレ着地。ドラッグ部門も、花粉症薬のような採算性のよい季節商品の拡販、スケールメリットの発現が1Q業績をけん引した。(多功 毅)
<b>セブン&amp;アイ HD</b> (3382) 東証1部 4,500円 100株	1Q決算は前年同期比8.9%増収、2.7%営業増益。5月の天候不順や国内コンビニのチャージ料減額の影響はあったが、海外コンビニ事業の伸びがけん引し、営業利益は2期連続で過去最高を達成。チャージ料減額で加盟店が発注を強化するようになり、国内コンビニの売上シェアは一段と上昇。新レイアウト店は冷凍食品やデイリー商品、カウンター商品などを中心に売上が伸び17,400円の売上増効果があった。1Qで300店の新レイアウト導入が進行しており、通期で1,700店に導入する方針。(松本 直志)
<b>クスリの アオキ HD</b> (3549) 東証1部 8,830円 100株	前期決算は、知名度の低い新規展開エリアにおける新店での過度な価格訴求が響き上期の利益が苦戦したものの、売価戦略の修正を進めた下期から着実に改善し17.2%増収、11.1%営業増益での着地。今期は、調剤事業において薬価改定の影響を織り込む一方、関東、東海、近畿等の新規展開エリアを中心に新規出店80店、既存店売上高前年比を通期+3.3%(上期+3.2%、下期+3.4%増)としたうえで、16.1%増収、10.6%営業増益と連続2ケタ増益を計画。(多功 毅)
<b>エイチーム</b> (3662) 東証1部 2,260円 100株	3Q累計決算は前年同期比12.5%増収、37.5%営業増益。スマートフォン向けゲームは計画下振れペースながら、ライフスタイルサポート事業の伸びがけん引。引越し比較・予約サイトや車査定・車買取サイト、結婚式場情報サイト、キャッシング・カードローン総合検索サイトなどが伸び、ライフスタイルサポート事業の3Q累計決算は前年同期比44.3%増収、63.8%増益と好調。競争力が向上し広告対策もうまく進んでおり、今後も事業拡大が見込まれる。(松本 直志)
<b>岡本工作機械</b> (6125) 東証2部 3,570円 100株	前期決算は、主力の研削盤が国内は工作機械及び半導体製造装置業界向けに、海外は北米航空機及び自動車部品業界、中国EV関連業界向けに好調に推移。加えて、半導体関連装置もウエハーメーカー向けに需要は旺盛であり、前年同期比21.4%増収、77.0%営業増益で着地。今期についても高水準の受注残の消化、国内外での工作機械及び半導体関連装置の受注積み増しを見込み11.0%増収、28.9%営業増益を計画。(多功 毅)
<b>ハーモニック ク・ドライブ</b> (6324) 東証JASDAQ 4,805円 100株	17年度決算は前年同期比80.7%増収、61.2%営業増益。エッチング装置や洗浄装置など半導体製造装置やFPD製造装置に加えて、スマートフォンなどの組み立て用小型ロボ、自動車など向け産業ロボの需要が拡大。人手不足、労務費上昇から生産性向上の取り組みが急務になっており、18年度も前年同期比26.1%増収、38.1%営業増益計画。需要増に合わせて今後3年で710億円規模の増産投資を行い、20年度に売上1,000億円、営業利益260億円の達成を目指す。(松本 直志)

## いつもあなたのそばで 頼れる金融機関です

やまわ

### 山和証券店舗網

本店営業部	(03) 3668-5412	〒103-0026	中央区日本橋兜町 1-8
金町支店	(03) 3600-6681	〒125-0041	葛飾区東金町 1-22-9
高円寺支店	(03) 3311-1171	〒166-0003	杉並区高円寺南 3-58-25
大岡山支店	(03) 5754-5523	〒145-0062	大田区北千束 3-28-1 パークホームズ大岡山ラヴィアンコート 1F
巣鴨支店	(03) 3918-6311	〒170-0002	豊島区巣鴨 3-33-2
上板橋支店	(03) 3935-0311	〒174-0071	板橋区常盤台 4-22-12
深川支店	(03) 5600-7891	〒135-0005	江東区高橋 11-1
茂原支店	(0475) 25-1151	〒297-0023	茂原市千代田町 1-6 茂原サンヴェルプラザ 1F



### ○金融商品取引法に基づく表示事項

◇商号：山和証券株式会社 金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第190号

加入協会：日本証券業協会

◇ご投資にかかる手数料の概要およびリスクについて

- ・国内上場株式等を購入する場合は、約定代金に対して最大 1.1772%（ただし約定代金 230,000円以下の場合は最大 2,700円）の委託手数料をいただきます。
- ・国内上場株式等は、価格の変動等により損失が生じるおそれがあります。また、発行会社の信用状況の悪化等により投資元本を割り込むおそれがあります。商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので当該商品の契約締結前交付書面をよくお読みください。

### ○山和証券免責事項

- ・本アナリストレポートは、投資の参考となる情報提供を目的としたものであり、特定の有価証券の売買あるいは特定の証券取引の勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断と責任でおねがいします。
- ・本アナリストレポートの全部もしくは一部を引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

発行 山和証券調査室